

山口大学教育学部での「e-ちゃぶ台」調査

平成19年12月14日(金)、「ちゃぶ台」方式による学生の教育実践力養成の取り組みで実績を上げ、平成19年度より情報・通信システムを活用した「e-ちゃぶ」に取り組んでいる山口大学教育学部に調査に出かけた。

調査に参加したのは、橋ヶ谷、住野（以上、研究教員）、田島、黒崎（以上、実務家教員）、近藤、小山、泊（以上、コラボレーション・センター）の計7名である。

(1) 調査の目的

今回の調査の主な目的は、まず何よりも、教職コラボレーションセンターの整備・充実に必要な以下の情報を収集することであった。

第一に、教職大学院と連携協力校とをつなぐ「リアルタイム動画通信システム」の確立に関わる情報の収集である。連携協力校で行われている授業等の実践をリアルタイムで大学に送信し、分析討議するために必要な動画通信システムには様々な方法があるが、山口大学での経験を参考にしたいからである。

第二に、教職大学院での授業や教材、院生の実践等をデータベース化し、WEB上に置き、必要に応じて閲覧できるようにする「ビデオ・オン・デマンド（VOD）」システムの確立に関わる情報の収集である。

第三に、教員集団と院生集団での日常的な議論の場を提供する「電子掲示板」システムの確立に関わる情報の収集である。どのような形式と利用が可能な「電子掲示板」が院生の学習支援、教員・院生間の情報交流にとって最適であるのか、山口大学での経験を参考にしたいからである。

第四に、院生の学習・研究の履歴を蓄積していく「デジタル・ポートフォリオ」システムの確立に関わる情報の収集である。

以上、教職コラボレーションセンターの整備・充実に関する情報の収集が中心的な目的であるが、あわせて、「ちゃぶ台」を活用して継続的に優れた教育実践・研究を蓄積している山口大学教育学部の秘密を探るってことも大きな目的の一つであった。



(2) 調査の概要

山口大学教育学部到着後、学部長室を訪ねた。そこで、吉田一成学部長より私たちの訪問に対してねぎらいと励ましのお言葉をいただいた。

その後、「ちゃぶ台ルーム」に移動し、「e-ちゃぶ」プロジェクトを実質的に進められている鷹岡亮先生より30分程度の概要説明をいただいた。その後、ちゃぶ台

ルームで実施されていた学生と関係教員による「ちゃぶ台林間学校」の振り返り討論の参観、ちゃぶ台ルームの施設・設備の調査等を行った。



: 鷹岡先生による概要説明



: 振り返り討論の様子

(3) 調査の成果

今回の調査を通じて、教職コラボレーションセンターの整備・充実に有益な、以下のような情報を得ることができた。

①「リアルタイム動画通信システム」に関して

山口大学教育学部のちゃぶ台ルームに設置された「2地点テレビ会議システム」は、帯域に応じて2種類のシステムを設置していた。

- (A) 広帯域用テレビ会議システム+山口大学開発 DVTS システム(映像・音声伝送装置)
(DVTS システム自体は、PC 本体+FreeBSD 込みのソフトウェア)
- (B) 狭帯域用テレビ会議システム+NTT VP1500(昔の『フェニックス』の IP ネットワーク版)

広帯域は、附属山口地区と附属光地区に1台ずつ設置され、学内的にはメディア基盤センターが主導して利用推進をはかっているため、学内の委員会会議・事務会議等でも利用されている。このテレビ会議システムの出力を Windows Media Server に入力し配信することによって、テレビ会議システムの内容を1対多で配信することも可能であった。

DVTS 会議システムには、すでに、附属幼稚園公開研究会での講演会や附属小学校での授業研究・授業検討会をリアルタイムで配信した実績があった。附属学校園と教育学部の各教員研究室とは太い回線につながれているため、300KB 程度の品質でスムーズな動画が配信され、動画の視聴やテレビ会議に支障はないということであった。ただし、音声聞き取りにくいことがあること、授業中の子どものノートの文字が読み取れるほどの解像度がないことなどの問題点があり、今後の課題であるとのことであった。

教職コラボレーションセンターにおいて院生の実習指導、授業研究を可能とする動画通信システムを確立するためには、集音のためのマイクの工夫、ハイビジョン・レベルのカメラの活用、連携協力校との間の太い回線の確保等が必要であることがわかった。

②「VODシステム」について

コンテンツの中継・配信に関しては2台のサーバを利用している。

(C) コンテンツエンコーダシステム(コンテンツ作成システムを兼務) + 山口大学開発 DVTS システム(映像・音声伝送装置) (DVTS システム自体は、PC 本体+FreeBSD 込みのソフトウェアで構成)

(D) ストリーミングサーバ+DELL PC + Windows Server + Windows MediaServer
(公開ポイントはライブ配信用、VOD 配信用 各1つずつ)

600Kbps 帯域確保で、公開ポイントあたりの同時セッション数は 50 まであり、ハードディスク容量は 90 分コンテンツが 1000 本作れる容量を確保していた。

なお、上述の(A) (B)と(C)は、映像・音声ケーブルで接続されているので、(C)でエンコードされたコンテンツを(D)経由でインターネット上に配信することが可能になる。インターネット上では、Internet Explore 等のブラウザで閲覧可能である。

このシステムを活用し、すでにイベントや授業の動画等が配信されている。「ちゃぶ台フォーラム」として開催された俳優の原田大二郎氏を迎えたラウンド・テーブルの動画は、すでに 200 アクセスを超えているという。

VOD システム構築の最大の課題は、ハード面ではなく、ソフト面であった。すなわち、第一に、肖像権や著作権、個人情報等を侵害しないようにするための手だてである。許可していない者の侵入を防ぐセキュリティを確立し、また、当該者の了承を得る手だてをとる必要がある。



そして第二に、動画コンテンツの編集作業である。視聴に耐えるコンテンツにするためには、編集作業が必要であるが、その作業には一定の技術と時間が必要である。素材を持ち込む者と教職コラボレーションセンター職員との役割分担と協働の仕方が明らかにされる必要があることがわかった。

③「電子掲示板システム」について

(E) e-ちゃぶ Web サーバ(URL: <http://nagomi.e-chab.edu.yamaguchi-u.ac.jp/xoops/>)
+ OS: Turbo Linux 10 SERVER

現時点では BBS は立ち上げていない。当初は BBS を立ち上げを考えたが、e-ちゃぶは「ちゃぶ台ルーム」に来たくなるような情報を提供する場と位置づけ、コミュニケーションはあくまでも「対面」で行うという状況を維持することが重視されているからである。但し、e-ちゃぶには perl や PHP がインストールされているので、BBS を立ち上げることは可能である。

e-ちゃぶプロジェクトの一つ「ちゃぶ台林間学校」において Weblog による電子掲示板システムが活用されていた。そこでは、林間学校の準備過程および省察過程において電子掲示板を活用することで、学生・教員間での情報共有がもたらされていた。特に、省察過程では、設定された観点から振り返らせ、その観点で書き込みさせることによって、全学生の個人ページに記入された書き込みを、観点ごとに横断的に検索できるシステムが構築されていた。このシステムは、電子掲示板への多様な書き込みを分類し、関連づける方

法として有効である。

また、日常的な電子掲示板を通じた情報交換・共有が、参加している学生間や教員との仲間意識や協調性・同僚性をつくり出すとのことであった。こうした効果にも着目する必要があると感じた。

さらに、実習での学生の体験が書き込まれ、そこに指導教員が指導・助言する取り組みが紹介された。これを継続的に行うには、指導教員の力量と情熱が必要であるが、教職大学院での院生指導の方法として参考となった。

④「デジタル・ポートフォリオ」について

山口大学教育学部でも、学生たちの学びの履歴を蓄積していくことの必要性が共有されており、研究が進められているが、現時点では一つの授業科目の中で履歴を記録している試みがなされている（「教職概論」という授業での「教職カルテ」の作成をしている）段階であるとのことであった。また、業者委託で「学生相談カルテ」システムを作っている。まだ使われていないが、学生の教職に関する相談事、そしてそれに対する処方を先生間で共有しようとしている。

教職大学院での学びの履歴をポートフォリオ化することで、学びの成果を積み上げ、系統的に教育実践力を養成するカリキュラム経営を確立する必要性を再認識した。

以上の、教職コラボレーションセンター関連の情報収集のほかに、今回の調査を通じて明らかになったことを二点あげておきたい。

⑤自主的・自治的な学生集団の組織化の必要性

今回の調査で、教職大学院での指導に関して新たに認識したこととして、院生の集団としての自主性や協働性・共同性を高める手だてが求められるということである。

ちゃぶ台を活用した教育実践力養成が成果を上げられるのは、同じ問題意識・目的意識を持った学生たちが、単位認定されなくても、自主的に集まり、自治的にそれぞれのプロジェクトを準備し、実施し、省察するよう進められている点が多い。ちゃぶ台がその場をつくり出し、電子掲示板がコミュニケーションを引き出している。

本GPにおいても、院生に教育実践課題をチームで解決していく力量を養成することを目標としている。それを支援するシステムを具体化しなければならない。

⑥本当の教育実践力をつけたいという願いで教員が結集する必要性

山口大学教育学部のちゃぶ台の取り組みは、およそ10名の熱心な教員の参加と協働によって進められている。これに取り組む教員に共通しているのは、「自分は教育学部でどんな学生を育てようとしているのか」「教員としての力を持った学生を育てるにはどうしたらいいのか」を真剣に考えていることであるという。

本学教職大学院の担当教員も、このような目的意識と志を共有し、教職大学院の成功に向けて努力することが求められる。

（文責 住野好久）